

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 国東 高等学校	
学校教育目標	「鍛え磨く 探る 挑む」を体現し、豊かな心を育むとともに、先端的・協働的な学びを通して地域・日本・世界を支える人材を育成する			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・良い。 ・「豊かな心を育む」「先端的・協働的な学び」をキーワードとする学校教育目標は、生徒や地域のニーズに応じたもので的確である。 ・今年度1年生が取り組んだ宇宙STEAM探究では、学科を越えた生徒、教職員のつながりができた。 ・「宇宙視点で考える」はスケールが大きすぎて、入学早々の生徒たちにとっては戸惑いがあるように感じた。 ・「宇宙」を通した学びは今後も積極的に発信し、学校全体で学校教育目標に向かう気運がさらに高まることを期待したい。	・学校経営ビジョンの実現に向けて、カリキュラム・マネジメントの一層の推進を図る。具体的には、1年次の宇宙STEAM探究を通じて「宇宙知識の基礎」や「探究の手法」を学び、2年次以降の探究活動(宇宙STEAM探究やSPACE探究)や専門学科の課題研究に宇宙関連の課題を設定する等、教育活動全体を通じて宇宙視点で地球課題の解決に繋がる探究活動を目指す。 ・1年次の宇宙STEAM探究を通じて、通常の教科の学びが探究に直結しており、それぞれの生徒の生活に直結した学びとなることを認識させることで、校訓(鍛え磨く、探る、挑む)を体現させたい。
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・各分掌がそれぞれの課題に対して責任をもって適切な改善方策を立てていた。 ・「一部の教室で授業中騒がしい」という声に対して、授業改善だけでなく、教育相談や特別支援等、様々な視点からアプローチできるような情報が整理されていた。 ・分掌間で連携をとることができており、重点的取組や取組指標を意識して実践している様子も伺えた。	・目指す生徒像を具体化し、身に付けさせたい資質・能力を明示して学校評価計画を策定する。グランドデザインを示し、職員研修を重ねる中で共通理解と同僚性を育みながら組織的に対応したい。 ・授業が教育活動の柱となるように授業のグレードアップを様々な視点から構築する。授業改善の推進には、教育相談的視点や特別支援、人権教育等の多方面からの情報共有と絶え間ない研修を図ると共に、短期間での改善を図っていく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・良い。 ・宇宙STEAM教育を中心に、外部の専門家と連携した教育課程が実現されている。 ・来年度の本格実施に向けて、探究プロジェクトチームや学年の教員などの指導体制の構築が求められる。 ・学校HPについては、情報発信先(ターゲット)を考慮し、画像や動画を含めたコンテンツにするとういと思う。	・宇宙関連学習の本格実施に向けて、外部資源の活用と同時にさらなる教職員の協力体制を構築していく必要がある。総合的な探究部を中心とした学校教育の核(コア)の組織的な強化と連携体制の円滑化を管理職が中心となり、ミドルリーダーを育成することで構築したい。 ・分掌機構の再編成により、学校組織がより機能的に教育活動を実践できるよう改善すると共に、広報においてもターゲットを明確にした上で情報発信方法を改善して国東高校の良さを周知したい。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・I C Tを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・11月に授業研究会が実施される等、授業改善に向けた取組がなされている。 ・科やクラスによって、授業に対する生徒の様子や教員の授業に注ぐエネルギーが多少違うように感じられた。 ・学ぶ楽しさや前向きな学びの姿勢を作る双方向の授業を展開してほしい。 ・一部の授業では一方的な説明が多く、生徒が質問できなかつたり、対話の場がなくなつたりすることが生徒へのヒアリングからも伺えた。 ・授業改善の研修は、好事例から学ぶスタイルだけではなく、対話を授業に取り入れる難しさなど授業改善における悩みや困難を語り合い、改善に向けたアイデアを探る研修が求められるのではないかと。	・学習の個別最適化を念頭に置き、主体的・協働的で深い学びを構築するよう授業改善に取り組む。一元的、一方的な講義形式の授業に終始せず、ICTを効果的に取り入れた双方向で対話のある授業を全教科で取り組みたい。 ・生徒の学習成果や困り、非認知指標を検証するエデュバス等、教育診断的システムを有効活用した職員研修で共通理解を図り、学校全体としてより学習効果の高い授業構築を目指す。 ・授業での困りや悩みをケーススタディとして共有した職員研修や授業担当者会議、拡大学年会議等を通じて職員間で風通しの良い雰囲気構築したい。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・生徒指導主任、教育相談主任、養護教諭が中心となり、学級担任と連携をとって生徒や保護者との面談の機会を設けている。 ・SC、SSWとの連携や合理的配慮を要する生徒の情報が整理され、的確に対応していることも評価できる。 ・少人数の良い点としていじめがないと生徒から発言があり、その点は長所と言える。 ・保健室の利用状況を分析して、各科や各クラスの傾向をつかむと良いと思う。	・養護教諭や教育相談主任、生徒指導主任を核(コア)とした、学年部や担任と連携した教育相談体制のさらなる支援体制を構築し、学校に登校できない生徒や困りを抱えた生徒への支援を続けていく。 ・SCやSSWとも情報共有や支援策を共有し、学校と家庭、専門機関の三位一体となった解決策を模索することで学びを止めない体制の構築を目指す。 ・人間関係プログラムを充実させ、協働的で共感的な人間関係づくりを推進すると共に、人権教育を充実させることでいじめのない集団づくりで安心・安全な学校を目指す。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・登下校時の避難方法や避難場所について、1年生は避難に関するビジョンが全くなく生徒への浸透は不十分。 ・生徒が自立的に自分の身を守る行動ができるよう、全学年で避難訓練の実施や避難場所・避難ルートの共有を図るべき。	・各クラスに防災委員を新規に設置し、学校全体で避難体制、防災意識の向上を図ると共に、防災コーディネーターを中心とした緊急時の避難体制や安全確保、安否確認の円滑化を図る。 ・具体的には防災委員会が中心となり、生徒の自主防災、自主避難意識の醸成と涵養、国東市や大分大学と連携した防災・減災について主体的に行動できる生徒の育成を目指す。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、I C Tの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・分掌会議や運営委員会、提出書類の削減や重複した報告事項等、さらなる点検が必要。 ・思い切った仕事の断捨離をするべきだが、授業の質を落としたり、生徒との時間が減つたりすることがないように注意が必要。	・生徒と向き合う時間を構築するための業務改善案を3学期に策定した。今後も順次スリム化に取り組んでいきたい。 ・具体的には定例職員会議の廃止や行事の精選、金曜日7限での分掌会議等、斬新的な取組を次年度から実施。教育のICT化も同時に図ることで業務の効率化を推進する。
	学校課題の解決に向けた取組等	○地域との連携協力	・公営塾については、生徒のニーズに合わせて授業が組み直される等、改善が図られているようだった。今後も生徒の声を聞くとともに、連絡会等で生徒にとってプラスになるよう働きかけを行っていく必要がある。 ・地域から愛され選ばれる学校になるためにも同窓会組織を立て直し「みんなの国東高校」を取り戻してほしい。	・公営塾については、生徒・教職員にもアンケート調査を実施することで、より良い運営体制が構築できるよう検証を実施する。 ・国東市、公営塾、学校との連絡協議会を定期的に開催、さらには運営協議会での意見を反映させた塾運営を目指す。また、学校と塾との学習内容や生徒ニーズ、困り等を共有できるように連絡体制を充実させると共に、塾への出席状況や教員への塾での教授内容の共有をこまめに実施する。
総合評価	<p>・学校経営ビジョンは的確で魅力がある。宇宙STEAM探究(2、3年次の総合的な探究の時間、課題研究も含めて)を教育活動の核とすることで、その強み、魅力の共有化を図ってほしい。</p> <p>・生徒同士の対話を取り入れた授業改善や学習状況の把握(生徒の「わからない」の声を大切に授業や公営塾への働きかけを含む)がなされることで、本校の魅力がさらに高まることを期待したい。</p> <p>・生徒は素朴で明るく、将来についての明確なビジョンを持っており、国東高校でそれが実現すると信じて頑張っている。</p> <p>・普通科、農業科、工業科と複数の学科があることで多種多様な生徒がおり、個性的な先生方もいる。様々な分野で大分県を支える人材を多く輩出してほしい。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・国東市内唯一の高校、さらには来る宇宙開発時代に直面するであろう新たな価値を創造し逞しく生き抜く人材の育成に向けてご示唆をいただいた。学校教育目標の実現に向けて全職員で邁進していく。</p> <p>・授業のアップデートを目指し、講義形式の授業スタイルから対話を取り入れた、より効果的で深い学びを目指した授業を実践する。そのためにはICT機器を効果的に活用し、個に応じた個別最適な学習を推進すると共に、生徒の声に耳を傾け共感的態度で公営塾や家庭と連携して学習効果を高める。</p> <p>・生徒の自己実現に向けた支援を教職員全体で取り組むと共に、学校運営協議会等を通じて地域の協力も効果的に活用しながら、地域の学校、先進的なSTEAM教育を推進する学校として国東総ぐるみで教育活動に邁進したい。</p> <p>・生徒と向き合う時間の確保を目指し、個別最適で丁寧な指導の下、外部資源を活用した新たな価値を創造する学びを推進し未来人材の育成に取り組む。宇宙を学びの題材として地球課題の解決に将来的に取り組める主体性を備えた人材育成に取り組む。</p>			